国立研究開発法人
水産研究・教育機構

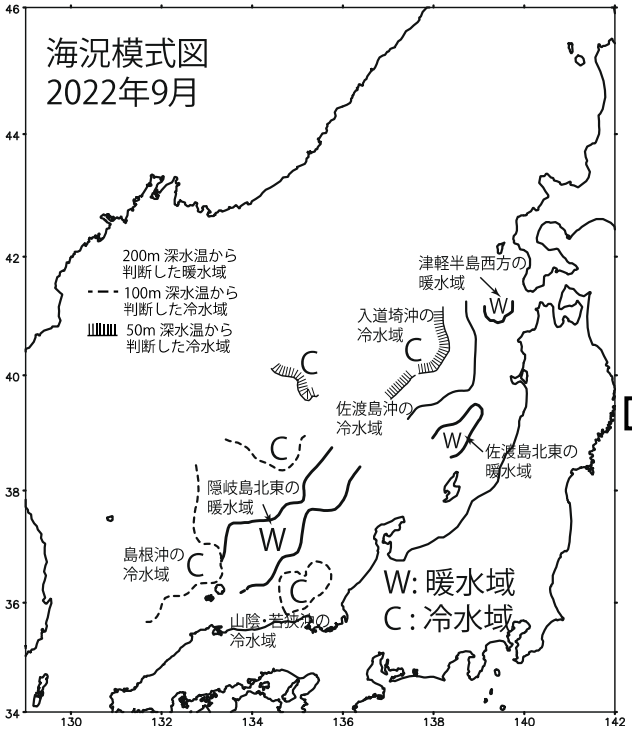
プレスリリース

２０２２年１０月７日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

# ２０２２年度 第３回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

## 今後の見通し(2022年10月中旬～12月）のポイント




（註）用語の定義は以下のとおり。
”はなはだ”：出現確率約 22 年に１回、”かなり”：出現確率約７年に１回
”やや”：出現確率約３年に１回、”平年並み”：出現確率約２年に１回

○隠岐諸島北東の暖水域は定在する。佐渡島北東の暖水域はやや西に移動し、佐渡島北西に分布する。津軽半島西方の暖水域は勢力を弱めつつ南西に移動し、男鹿半島北西に分布する。

○島根沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並み、接岸距離はやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり大きく、接岸状況はやや接岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり小さく、接岸状況ははなはだ離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく、接岸状況は平年並みで経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。

○対馬暖流域の 50m 深水温は、日本海西部は“平年並み”、北部は “かなり高め”で経過する。

## 問い合わせ先


国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 上原
海洋環境部（新潟） 渡邊、井桁
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL
http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease

# 2022年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2022年10月中旬～12月）

(1) 隠岐諸島北東の暖水域は定在する。佐渡島北東の暖水域はやや西に移動し、佐渡島北西に分布する。津軽半島西方の暖水域は勢力を弱めつつ南西に移動し、男鹿半島北西に分布する。

(2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並み、接岸距離はやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり大きく、接岸状況はやや接岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり小さく、接岸状況ははなはだ離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく、接岸状況は平年並みで経過する。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。

(4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“平年並み”、北部は “かなり高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2022年6月～9月、(2)～(3)は2022年6月～8月、(4)は2022年6月）

(1) 6月に隠岐島東方で見られた暖水域は7月に消滅。隠岐島北東で見られた暖水域は9月まで停滞。富山湾で見られた暖水域は8月にやや北東に移動した後、9月に消滅。佐渡島北西に見られた暖水域は北東に移動し、9月に佐渡島北東に分布。山形沿岸で見られた暖水域は8月に弱体化し、9月に消滅。津軽半島西岸に見られた暖水域は7月に津軽海峡から太平洋へ流出。9月に津軽半島西方に暖水域が出現。

(2) 島根沖の冷水域は、6 月はやや小さく接岸距離は平年並み、7 月はやや小さくやや離岸、8 月は規模は平年並みでやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、6月はやや小さくはなはだ離岸、7月は規模は平年並みでやや接岸、8月はやや大きくやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、6月は規模は平年並みでやや離岸、7月はやや小さくやや離岸、8月はかなり小さくはなはだ離岸。入道埼沖の冷水域は、6月はかなり小さくやや離岸、7月ははなはだ小さくはなはだ離岸、8月はやや小さくかなり離岸。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は、積丹半島北方～北西、能登半島北方で“やや低め”以外、“平年並み”～“やや高め”。7月は、男鹿半島北西、佐渡島周辺、上越沿岸、隠岐諸島～北西で“かなり高め”、奥尻島北方、津軽半島西方で“やや低め”以外、“平年並み”～“やや高め”。8月は石狩湾周辺で “かなり高め”以外、“平年並み”～“やや高め”。

(4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“やや高め”。

3. 現況（2022年9月）

(1) 暖水域は、隠岐島北東、佐渡島北東、津軽半島西方に分布。

(2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、かなり大きくやや接岸。佐渡沖の冷水域は、かなり小さくはなはだ離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さく接岸距離は平年並み。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、津軽半島西方で“かなり高め”、隠岐諸島北西で“やや低め”以外、“平年並み”～“やや高め”。

(4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部で“平年並み”、北部で“はなはだ高め”。

（註）用語の定義は以下のとおり

| | | |
|---|---|---|
| ”はなはだ” | : | 標準化した数値の絶対値が2.0を超える（出現確率約22年に1回） |
| ”かなり” | : | 標準化した数値の絶対値が1.3を超え且つ2.0以下（出現確率約7年に1回） |
| ”やや” | : | 標準化した数値の絶対値が0.6を超え且つ1.3以下（出現確率約3年に1回） |
| ”平年並み” | : | 標準化した数値の絶対値が0.6以下（出現確率約2年に1回） |

標準化に用いた平均値と標準偏差は1986～2015年のデータから算出

# 参　画　機　関

| | |
|---|---|
| 地方独立行政法人　北海道立総合研究機構<br>　　水産研究本部　中央水産試験場<br><br>地方独立行政法人　青森県産業技術センター<br>　　水産総合研究所<br><br>秋田県水産振興センター<br><br>山形県水産研究所<br><br>新潟県水産海洋研究所<br><br>富山県農林水産総合技術センター<br>　　水産研究所<br><br>石川県水産総合センター | 福井県水産試験場<br><br>京都府農林水産技術センター<br>　　海洋センター<br><br>兵庫県立農林水産技術総合センター<br>　　但馬水産技術センター<br><br>鳥取県水産試験場<br><br>島根県水産技術センター<br><br>山口県水産研究センター<br><br>一般社団法人　漁業情報サービスセンター<br><br>（取りまとめ機関）<br>国立研究開発法人　水産研究・教育機構<br>　　水産資源研究所 |